

平安座海中大橋



| | |
|------|----------------------|
| 路線名 | 主要地方道伊計平良川線 |
| 規格 | 第4種1級 |
| 架橋位置 | 起点側：うるま市与那城屋平（平安座島側） |
| | 終点側：うるま市与那城屋平（本島側） |

| | |
|--------|----------------------------------------------|
| 橋種 | PC2径間連続斜長橋、PC2径間連続箱桁橋@2 |
| 橋格 | 1等橋 |
| 橋長 | 280.0m |
| 設計速度 | 60km/h |
| 有効幅員 | 車道7.250+歩道3.50 (m) |
| 支間割 | 2@35.0+2@70.0+2@35.0 (m) |
| 平面線形 | R=∞ |
| 架設工法 | 主桁：固定式支保工 主塔：総足場工法 |
| クリアランス | W=43.75m H=8.6m |
| 設計荷重 | TL-20 |
| 塩害区分 | A-(I) |
| 地質概要 | 深度が10m付近よりN値30以上の風化泥岩であり、深度25mのN値40程度を支持層とする |
| 事業費 | 約44億円 |

建設経緯

本橋は、主要地方道伊計平良川線の勝連半島と平安座島を結ぶ海中道路部にあり、うるま市役所(与那城庁舎)より東側約1kmに位置する。海中道路は、昭和47年に石油基地関連で建設され、金武湾に浮かぶ平安座・宮城・伊計島の離島苦解消に貢献したが、年々増加する交通量に対応できず、交通機能の向上及び地域振興を図る目的で早期改良の要望が強かった。改良に伴う本橋の建設に当たっては、金武湾港湾計画において屋慶名第2航路として位置付けられていることにより、橋長を既設橋の30mから280mに延長した。

| 年月日 | 事項 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和36年9月 | 平安座島から沖縄本島に向け海中道路を、幅20m、高さ2mで、延長1,900mまで建設するが、台風により被災する |
| 昭和45年7月 | 与那城村から沖縄県へ公有水面埋立申請書提出 |
| 昭和45年12月 | 村道認定 |
| 昭和46年4月 | 屋慶名~平安座海中道路建設工事始まる |
| 昭和47年4月 | 屋慶名~平安座海中道路建設工事完了 |
| 昭和62年11月 | 与那城村長、村議会議長より知事へ伊計島間道路の県道編入について要請 |
| 平成3年 | 伊計屋慶名線道路・橋梁検討委員会が開催される 与那城村伊計~屋慶名間の14.1kmの区間を県道伊計屋慶名線として認定される 国庫補助事業として採択される |
| 平成4年 | 一般車両用迂回道路工事着手 |
| 平成5年 | 伊計~平良川間の18.9kmの区間が主要地方道 伊計平良川線に認定される 旧橋撤去・施工ヤード工事着手 磁気探査業務着手 |
| 平成6年 | 下部工(A1, P1, P2, P3, P4, P5, A2) 工事着手 |
| 平成7年 | 上部工(中央径間)、上部工(側径間) 工事着手 |
| 平成9年11月 | 工事完了 |
| 平成11年3月25日 | 開通 |
| 平成26年10月 | 上部工補修工事(落橋防止装置設置、ひび割れ・断面修復・表面被覆工) |

平安座島の概要

位置：与勝半島の北東
人口：1,234人(平成28年)
世帯数：561戸(平成28年)
面積：5.32km²
特徴：島の北半分には石油企業の石油備蓄基地が立地している

受賞 平成9年度全建賞(道路部門)



島あげての海中道路建設(昭和36年)は台風被災で完成に至らなかった。



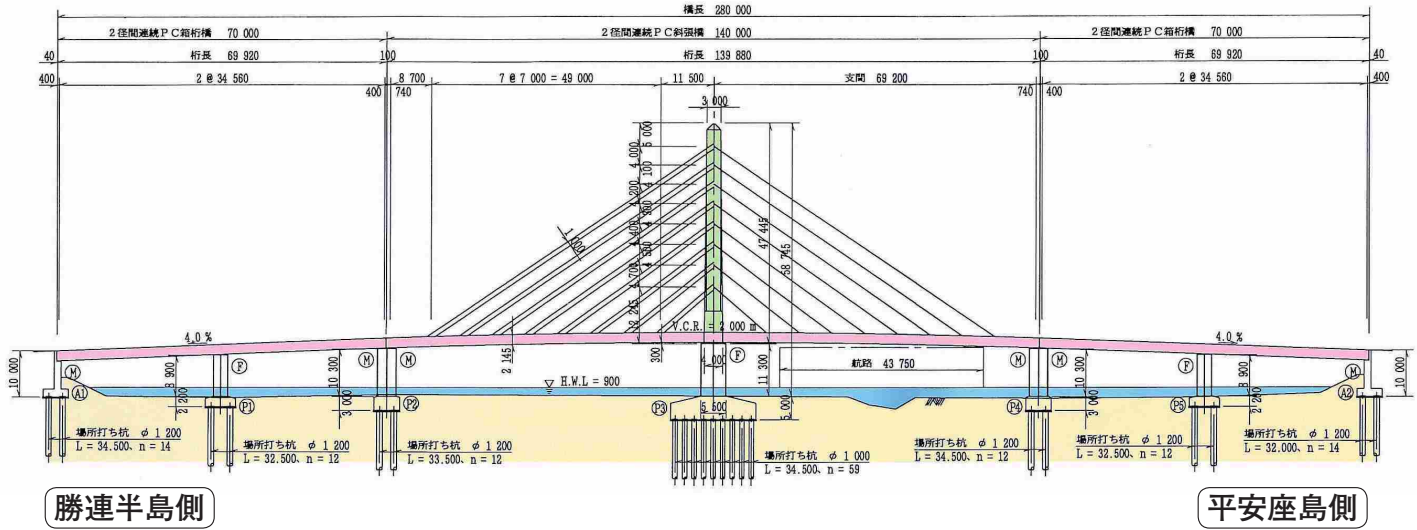
▶ 親柱



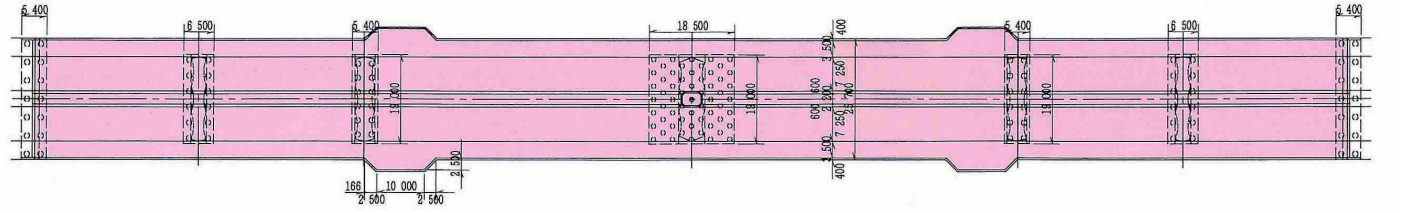
バルコニー▶

- ### 平安座海中大橋の特色
- 本橋は、「沖縄トピカル構想」の中で与勝海岸地区として重点整備地区に指定されていることから景観を重視し、主桁、主塔および斜材の組み合わせにより、周辺環境に調和した景観を得ることができる。沖縄県で初めてのPC斜張橋が採用された。高さ47.5mの主塔から1面吊りの斜材が張られた本橋は、通称「海中道路」のシンボルとなっている。
 - 主桁、主塔は圧縮部材となるため、圧縮に強いコンクリート、斜材は引張部材となるため、引張りに強い鋼材が使用され、材料特性を有効に活用した構造形式となっている。斜張橋はスパンの長大化が図れるため、経済性に優れている。
 - 主桁、主塔がコンクリート構造であるため、鋼材塗装のコスト縮減が図れる。また、斜張橋は桁高を小さくできるため、桁下空間を大きくとれる他、橋全体の重量、減衰率が大きいため、耐風安定性に優れている。

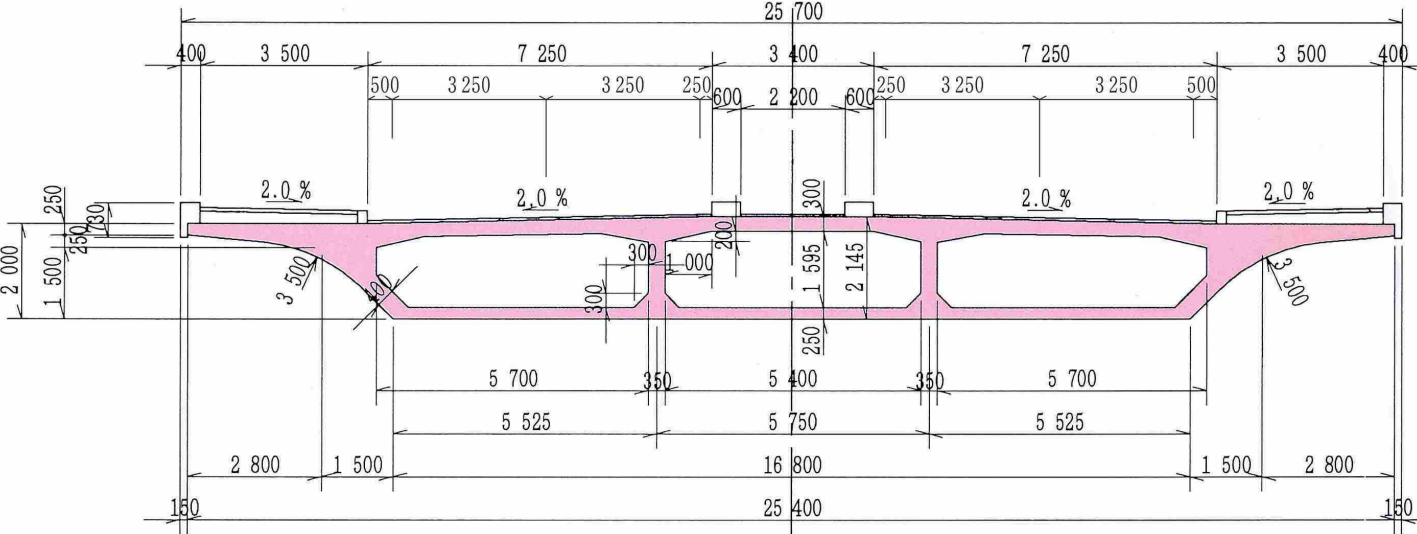
計画一般図



平面図



標準断面図

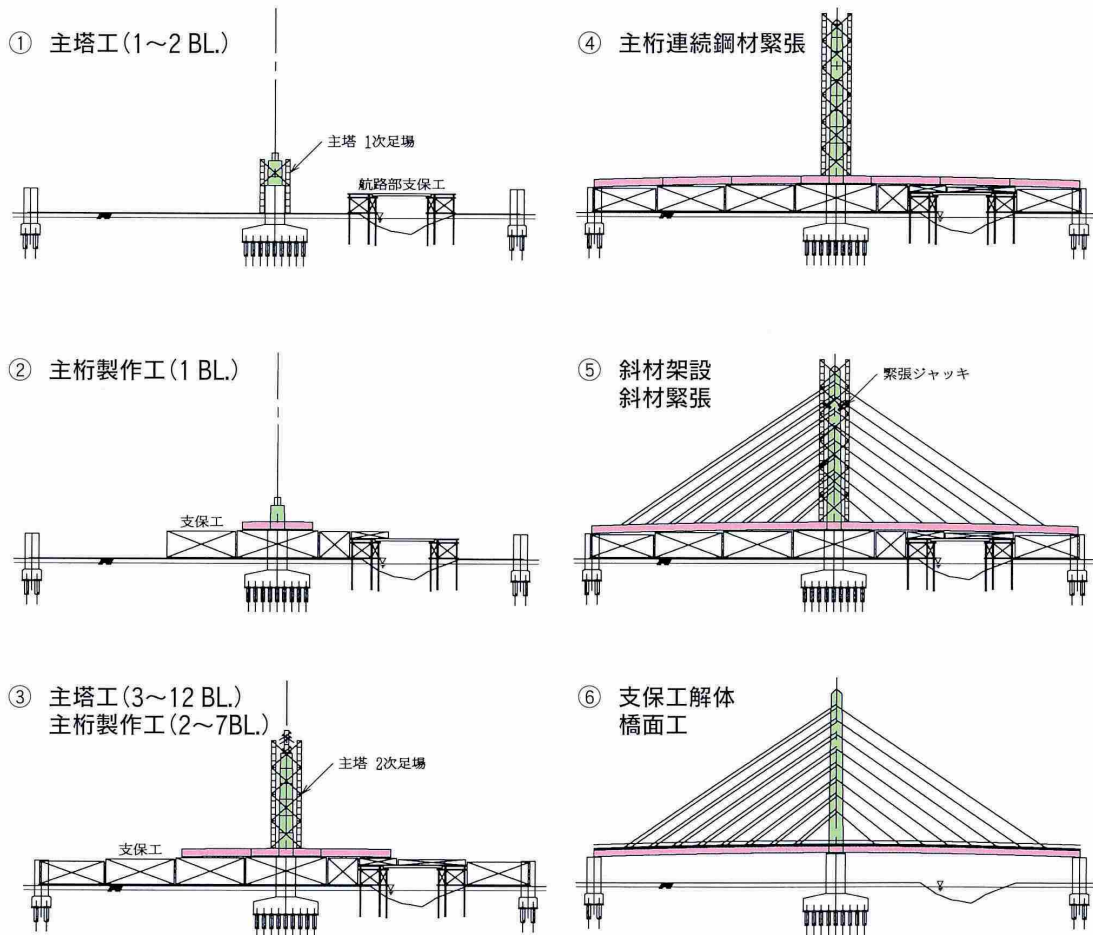


側面

●構造形式

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 上部工形式 | 航路部：P2～P4 PC2径間連続斜張橋 標準部：A1～P2 PC2径間连续箱桁 P4～A2 PC2径間连续箱桁 |
| 下部工形式 | 逆T式橋台 (A1、A2) 壁式橋脚 (P1～P5) |
| 基礎工形式 | 場所打ち杭基礎 (A1～P2、P4～A2) φ1200 (A3) φ1000 |

中央径間施工順序



平安座海中大橋全景



海中道路全景